県民の日記念ふるさと講座　「浜松城公園今昔」

講師を務める長松谷さん

8月31日(日)午前、浜松市福祉センターで事業部主催のふるさと講座「浜松城公園今昔」が一般市民25人の参加を得て行われました。

講師は事業部を代表して長松谷晃徳さんが務めました。

初めに浜松城公園の中心となる浜松城の戦国期から明治維新までの変遷について解説がありました。今川氏支配下、飯尾氏が浜松城の前身である引間城城主をしていた時代を経て、徳川家康により浜松城として引き継がれ、拡張されたこと。家康が関東移封になって豊臣秀吉家臣の堀尾吉晴が高石垣や天守を備えた近代的城郭に造り変えたことなどが、ＣＧの復元図を示しながら説明されました。

江戸時代を通して天守の存在は確認されていないけれども、城域は東西600m南北650mという立派なものであったことが分かりました。

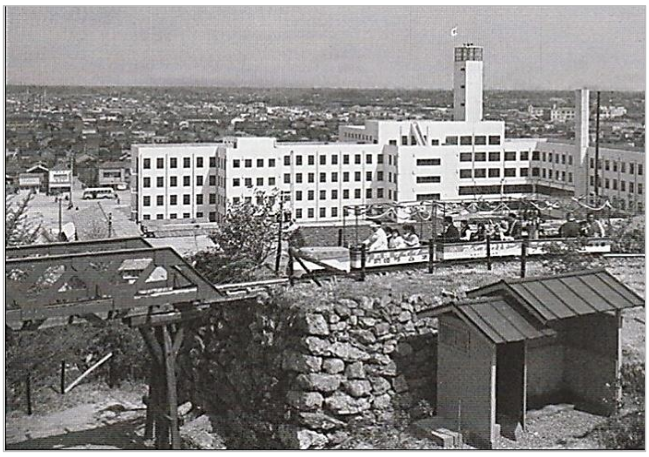
豊富な資料を提示しての講座の様子

明治維新後は、廃城令の通達で民間払下げとなり、観光施設、寺社や工場、住宅地などに利用されたとのこと。また、戦前には有名な本田宗一郎の住宅が鉄門の付近にあったそうです。

戦後、焼け野原となった浜松城周辺の変化を同じ角度から撮影した写真を順に映し出すことにより、その発展の様子は一層感慨深いものになりました。

受講者の興味を引いたのは、なんといっても戦後の浜松城公園の変遷についての段だったようです。今はない様々な施設の豊富な映像を用いての話でしたので、懐かしい映像が映るたびに「わ～ぁ！」っと、声が上がりました。かつて公園内にあった動物園のゾウの浜子、日本の動物園中最も多産を誇ったライオンの夫婦、おさるの電車。乗車時間たった3分の空中ケーブルカー等々昔日の姿がよみがえりました。

第1回東京オリンピック前年の昭和38年に完成した浜松市体育館落成の折には、翌年金メダルを取ることになる日紡貝塚バレーボールチームの紅白試合や体操の小野喬、遠藤幸雄などの演技が見られたとのことです。また、この年12月には戦後日本の英雄力道山の最後の試合も行われたそうです。


天守門上を走る展望列車

観光ガイドの身としては、天守曲輪の周りを電車が走り、天守門の櫓が鉄橋になっている写真には、驚きました。会場にいた大多数の方には幼い頃、若い頃がよみがえる懐かしい映像の数々が見られたことと思います。ある参加者からは、「中部中学校の出身なので特に思い出深く講座を聴いた」「親しんできた浜松城公園でも知らないことといっぱいあった」など、今回の講座を楽しんでいただけたことが分かる声がたくさん聞かれました。アンケートの集計も楽しみです。

準備段階から事業部の皆さんが各所に出向き、貴重な記録を集められたことが、今講座の成功の第1歩だったと感じました。

広報部　馬渕　豊(南ブロック)

若き頃の豊臣秀吉ゆかりの地（遠江）

【秀吉伝説】

来年の大河ドラマは「豊臣兄弟！」です。「おんな城主直虎」「どうする家康」に続いて、浜松ゆかりの人物が取り上げられることになりました。浜松における豊臣秀吉に関係した人や場所・事柄について紹介します。

豊臣秀吉は少年期に遠江国（現在の浜松市中央区頭陀寺町）に来て、３年ほど松下加兵衛之綱に仕えたと言われています。

頭陀寺境内にある秀吉･家康･直政の像

「太閤素生記」によれば、

「一　太閤十六歳天文二十年辛亥春中々村ヲ出ラレ・・・遠州濱松へ来ラル・・・（以下略）」、

「一　其比遠江濱松ノ城主ハ飯尾豊前守ト云テ今川家ノ幕下ノ者ナリ・・・松下加兵衛ト云者小城ノ主ナリ是モ今川ノ幕下ナリ故ニ久能ヨリ濱松ニ至ル道ニテ猿ヲ見付異形成ル者也・・・（以下略）」とあります。加兵衛之綱は秀吉と生没年が同じということで、秀吉が仕えたのは之綱の父（長則）ではないかという説もあります。

■　鎌研池と片葉の葦の逸話

秀吉は、馬の餌となる草を集めるように言われたので草刈りをしていました。その際、鎌を研ぎその切れ味を試そうと鎌研池に生えていた葦の葉の片側だけを刈っていたことから、葦の葉はすべて片葉になってしまったということです。

天白神社境内にある鎌研池

■　目刺橋（片目のメダカ）の逸話

秀吉は手裏剣の稽古をするため、松の葉を手裏剣がわりにして、目刺橋付近で練習していました。すると、その葉が目に刺さったメダカがすべて片目になってしまったということです。

若い頃、徳川家康も雄踏の中村屋敷から、馬に乗って遊びに来ていたという伝承があります。

また、井伊直政については、直虎が虎松（直政）を虎松の母の再婚先である松下一族に養子に入れたことで、ここで生活を送ったそうです。しかも天下人である秀吉と家康、そして直政もここ頭陀寺にいたということを考えると、感慨深いものがありますね。

東ブロック　大場康弘

わたしのガイド日誌　英語ガイドびっくり体験

昨年 12 月、浜松城で英語ガイドをしていた時のことです。一人のインド人男性に声をかけ、「ガイドしましょうか」と申し出ると、快く「お願いします」と返事をしてくれました。そこで石垣や鯱鉾(しゃちほこ)、天守門の材質や構造について説明すると、彼は熱心に耳を傾け、うなずきながら時折質問もしてくれました。

その後、天守広場や富士見櫓へ案内し、「天気が良ければ富士山が見えますが、今日は雲に隠れています」と伝えました。さらに家康像の前で説明をしていると、彼が突然話し出しました。現在スズキ自動車の研修生として働いているが、来年 1 月に帰国して結婚する予定だというのです。私は「それはおめでとうございます」と祝福しました。すると彼は「ぜひ結婚式に出席してほしい」と言うのです。初対面でまだ 30 分も経っていない相手からの誘いに驚き、返事はせず、その場で別れました。

帰宅後、４年来付き合いのある元静大生のインド人友人（現在は東京在住）に相談しました。彼は「いくらインド人でも初対面の人を結婚式に招待するのは聞いたことがない。丁寧に断った方がよい」と助言してくれました。そこで事前に聞いておいたメールアドレス宛に丁寧にお断りの連絡を入れたところ、先方も理解してくれたようで、その後は連絡もなくなりました。

英語ガイド風景

この出来事を通して、ガイド活動では思いがけない出会いや体験があるのだと改めて感じました。

中ブロック　河合尋之

会員の交流広場

楽しんでいます！趣味のカラオケ

中日本歌唱力選手権
大会優勝

68 歳で退職して８年になります。この機に何か趣味をと、社会保険センターのカラオケ教室に週１回通うことを決めました。

初めのうちは教室で習う課題曲を歌うことで精一杯でしたが、先輩たちに誘われて、発表会や大会に参加するようになり舞台で歌うことの緊張感や醍醐味に、はまってしまいました。大会に出て入賞するようになってからは、練習にも力が入り、ますます魅力にとりつかれました。

４年位前から大会で上位入賞できるようになり、優勝や準優勝も獲得することができました。今は上位入賞と全国大会で入賞することを目標に頑張っています。

カラオケのボランテイアとしては浜松市の社会福祉協議会より依頼があったとき、高齢者施設等でナツメロを中心に利用者の方と一緒に歌う活動もしています。

女性、男性を問わず、多くの歌手の歌を楽しんでいますが、得意は北島三郎等の演歌です。

過去に大会で上位入賞した曲は次の曲です。

北島三郎	まつり/川
五木ひろし	九頭竜川
三山ひろし	お岩木山
山川　豊	アメリカ橋
対馬一誠	対馬海峡
木村徹二	つむじ風

袋井市のステージで
「対馬海峡」を歌う

観光ボランティアガイドの会の方、忘年会等でカラオケボックスやカラオケ喫茶へ行くときはぜひ声をかけてください。皆さまと一緒に歌える機会があれば幸いです。

歌を歌うことはストレス解消やなめらかな滑舌、誤嚥(ごえん)性肺炎の防止など、おなかから声を出すことで健康に一番良いと言われています。これからも観光ボランティアの活動と共に勉強していきたいと思っています。

南ブロック　金谷　昇

会員の交流広場

平和を祈って「銘心鏤骨」

表題の四字熟語は「めいしんるこつ」と読みます。「銘心」は心に刻み込むこと、「鏤骨」は骨に刻み込むという意味です。戦後 80 年を迎えて、皆さんはどんな想いでこの夏を過ごしたでしょうか。戦争について考えた方も多かったと思います。

2019 年慰霊祭参加者一同

台湾の南端とフィリピンの間のバシー海峡で、多くの日本人が命を落としたことをご存知でしょうか。その数は 10 万人とも 20 万人以上とも言われていますが、そのことを知る日本人は少ないのではないかと思います。

この海域は日本軍の艦艇や輸送船が行き交う場所で、アメリカの潜水艦による魚雷攻撃によって、多くの日本の艦船が沈没しました。連日のように浜辺に遺体が打ち上げられ、地元の人によって手厚く葬られたそうです。そして、沈没した船から奇跡的に生還した中嶋秀次さんが、仲間への鎮魂の想いを込めて私財を投じて台湾南端に潮音寺を建立しました。現在も台湾人の支援を受けて維持管理され、日本人ボランティアが慰霊祭を行い、今年の慰霊祭の様子はＮＨＫでも放送されました。

私の父は兄を台湾南方の海上で亡くしており、調べるうちに潮音寺のことを知って、2019 年に慰霊祭に参加することができました。

献花をする筆者の父

台湾の最南端であるガランピ岬の浜辺からバシー海峡を臨んで献花し、そこで遺族のあいさつとして語られた父の言葉に、今まで聞いたことがない「亡くした兄への想い」に目頭が熱くなりました。

「人は二度死ぬ」と言われます。一度目は肉体的な死。そして二度目は後世の人たちの記憶から忘れ去られる死。

平穏無事に過ごせる日々に感謝し、今日の日本の平和と安寧の礎となった方々の存在を忘れることなく、心に刻んでいきたいと思います。

西ブロック　松島知江子

会員の交流広場

世界遺産熊野古道伊勢路を歩く

新型コロナ明け間もないころ、バンビツアーの広告で「熊野古道を歩こう」の募集があり、その内容は月一度のペースで三回実施し三つの峠を越える予定だとのこと。早速申し込みをしました。熊野参詣道は都から近い中辺路、大辺路が知られています。「伊勢路は日本人にとって特別な場所です。伊勢神宮からいくつもの険しい峠を越え熊野三山に詣でるために通った祈りの道です」と書かれています。

「一回目ツヅラト峠越え」

この峠道はかって伊勢国と紀伊国の国境だった峠です。江戸時代以降、昭和初期まで生活道として使われました。ツアーバスが公園広場に到着すると、ここからは伊勢路のガイドさんの道案内でしばらく平坦な道を歩くが、なかなか調子が上がらず杉林で一息つくと暑さが少し和らぎました。標高 357mのツヅラト峠に到着して熊野の海を遠くに望むも、休む間もなく九十九折れの石畳の道を恐る恐る下り、やっとのことでバスが待つ広場へ到着しました。歩行時間４時間、水分補給のペットボトル５本を飲み切りました。

峠道

「二回目 馬越(まごせ)峠越え」

伊勢路の一部で苔むした石畳が続き峠道の勾配はやや急です。前回の轍(てつ)を踏むまいと案内人と話しながら歩くことにしました。当初は順調でしたが次第に会話どころではなくなり遅れだし、どんどん追い越して行くツアーのメンバーに道を譲り、マイペースで標高 325mの馬越峠に到着。着いた途端に出発の合図で再び石畳の道を下り悪戦苦闘の末、ようやく平坦な川沿いの道へ入っても調子が上がりません。バテバテになりながらツアーバスが待つ尾鷲神社にたどり着きました。

「あー、年歳はとりたくない！」三回目の予定はキャンセル。今、私のザックには「ツヅラト峠」「馬越峠」と焼き印された２枚の木札が縛り付けてあります。

峠を越えた証拠の木札

＜追記＞

推奨する「補陀洛山寺(ふだらくさんじ)」は那智勝浦町にある天台宗の寺。当寺で修行した住職が 30 日分の食料を持ち小船に乗り外から釘を打ち込まれ、遥か南方の観音浄土を目指しました。その捨て身の業の詳細を作家井上靖は「補陀落渡海記(ふだらくとかいき)」という作品で書き著しています。

中ブロック　清水正之

～訂正とおわび～

はままつ案内人会報９月号(278 号) 1 ページ、浜松市博物館 鈴木一有館長 講演「浜松城の最新情報」の「文中右と左下写真説明」の２カ所に誤りがありましたので、訂正しておわびいたします。

誤：遠州浜松城絵図 ⇒ 訂正：遠州浜松城図

９月のガイド活動　≪明るく楽しくやらまいか≫

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。
また、この３カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

≪浜松城≫
30 日　火　**浜松市立広沢小学校**　50 名

≪犀ヶ崖資料館≫
25 日　木　**浜松学芸中学校・高等学校**　8 名

≪浜松まつり会館≫
2 日　火　長野県箕輪町立箕輪西小学校　19 名
17 日　水　**浜松市立三ヶ日西小学校**　57 名

≪同行ガイド≫
30 日　火　**浜松市立広沢小学校**　42 名

はままつ案内人会報　279号
編集・発行　浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946　浜松市中央区元城町 100-2　(浜松城内)
ＴＥＬ　053-456-1303
メールアドレス　mail@hama-svg.jp
ホームページ　https://www.hama-svg.jp/
はままつ案内人　検索

家康公ゆかりの地